opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 26

2023/10/27

過去の記事はこちらから

1936年7月から39年3月まで続くスペ イン内戦は、第二次世界大戦の前哨 戦と言われますが、同国人の間で争 われた悲惨きわまる戦争でした。ま た同時にカトリック教会が経験した 数ある迫害の中でも最もひどいもの の一つでもありました。1936年2月 に成立した共和政府に対する軍の一 部の反乱によって始まるのですが、 早い時期に共産主義や無政府主義の 左翼勢力が共和政府の政権を握りま した。そうしてキリスト教を根絶や しにする政策を実行し始めたので す。スペイン内戦の間に共和政府側 で殺害された聖職者の数は7千以上 と言われます。また信仰を表した一 般信徒の他、共産主義の敵とされた 会社の経営者や資産家なども数多く 処刑されました。

聖ホセマリアがいたマドリードは共 和政府側になりました。町では絶え ず警察と民兵が見回りをし、しらみ つぶしに反政府の人間や司祭・修道 者の捜索をするようになりました。この恐怖政治の中で、神父は神で、神父はていたちの助けを受けているからないったとを告れているがら隠れ場を探すこれまで、注意なった場があれば、はなれました。しかいのはなれました。しかいのはないました。しかいではないました。というないでした。というないでした。というないでした。

命の危険は神父に従っていた人たちも同じでした。聖書やロザリオなどを持っていたり、司祭を助けたりしたことがわかれば、逮捕され、収容所に送られ、銃殺される危険が十分にあったのです。

このような状況で、隠れながらミサを捧げ、聖体を運び、信者の世話をするといった司祭の仕事を続けた英雄的な司祭が沢山いました。聖ホセ

マリアもその一人です。これから数回にわたって、この苦難の歴史を紹介したいと思います。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-26/(2025/10/23)